

授乳期の飼料添加:リジンのレベルを正確に

繁殖豚の管理の中で、分娩舎の管理はとりわけ中心的な部分です。母豚への産歴やコンディションに応じた飼料給与が大切ですが、経営的に厳しい時期だからこそ、今まで以上に気を使う必要があるというものです。特に授乳中の母豚に十分な量の食い込みをさせたい部分では、特にその目的はリジンの摂取量です。平均的に毎日 58～62gのリジンが母豚には必要だと言われていますが、初産母豚の一日平均リジン摂取量と離乳後の初回発情までの日数の関係を検討しました。

これによると、65g の給与を受けている母豚が最も早く発情がきて、リジンの要求量が初産豚ほど相対的に多いことも示されました。それは自分自身もまだ大きくなる身なので、むしろ当然のことかもしれません。それに比べて 23%もリジンの摂取(一日平均 50g の摂取)が少なくなった初産豚は、約 1.5 日発情までの日数がかかりました。また面白いことに、一日 65g以上給与されると、逆効果もあるようです。多すぎても無駄になるし、リジンとエネルギーの関係も重要と想像されます。いずれにしても大事なことは、飼料中にバランスよく必要なリジンが含まれていなければならないということです。

試験の結果、初産母豚にも確かな量のリジンが必要なことから、ただでさえ食い込みが少ない豚です。そのための管理上のポイントが重要になってくるのです。特に泌乳力の高い育種の場合、これを満たすために十分な量の飼料を食べさせられたかどうかで次回の成績が決まってしまうことをよく認識しましょう。このため、多くの人が授乳期は複数回に分けたり、ドブ餌にしたりと、できるだけ摂取量が増えるように工夫しています。

(National Hog Framer,2月 2010 をもとに)

2010年4月 グローバルピッグファーム(株)